

個を生かし、個を育てる国語科の学習指導法の工夫

～ ティーム・ティーチングによる授業づくりを通して ～

目 次

I	テーマ設定の理由	21
II	研究仮説	22
III	研究の全体構想図	22
IV	研究の内容	23
1	個を生かす教育	23
(1)	個を生かす指導	23
(2)	個の理解	23
(3)	個人差と理解	23
2	個を生かすティーム・ティーチングのあり方	24
(1)	個人差に応じた指導とティーム・ティーチング	24
(2)	ティーム・ティーチングのねらい	24
(3)	ティーム・ティーチングによる学習活動の展開のモデル	25
(4)	ティーム・ティーチングの授業構想の視点	25
3	ティーム・ティーチングを導入した授業設計	26
(1)	新しい学力観に立つ授業改善の視点	26
(2)	ティーム・ティーチングを導入した個を生かす授業づくり	26
(3)	個を生かすティーム・ティーチングによる支援と評価のあり方	29
(4)	主体的な学習を推進する学習環境の整備	30
V	授業実践	31
1	単元名	31
2	単元設定の理由	31
3	単元の仮説	33
4	指導目標	33
5	教材	34
6	教材とその指導	34
7	単元の評価規準と判定基準	34
8	指導計画	34
9	単元計画	35
10	本時の展開	36
11	評価計画	37
12	学習環境づくり	37
13	検証授業を終えて	37
14	評価の実際	37
15	資料	38
VI	研究の成果と今後の課題	40

個を生かし、個を育てる国語科の学習指導法の工夫

～ ティーム・ティーチングによる授業づくりを通して ～

宜野湾市立普天間第二小学校 教諭 仲村弘子

I テーマ設定の理由

これからの激動の社会を生き抜くために、現行の学習指導要領では、「自己教育力の育成」とともに、「基礎基本の尊重と個性化教育の推進」を掲げ、個性を生かす教育の充実が求められ、個人差に応じた教育の必要性が指摘されている。

国語科においては、「適切な表現力、判断力、想像力、思考力を養う」ことが重要だとされ、これらの能力を子ども一人ひとりに基礎的・基本的能力として身につけさせる必要がある。また、これらの能力は児童の個性を生かした指導を積み重ねることによって育成が図られるものとされ、そのためには自ら学ぶ意欲や学ぶ力を児童一人ひとりに確実に身につけるようにすることが大切である。

児童は一人ひとりが個性的な存在であり、知識、経験、学習能力、興味、関心などに違いがある。従って日々教育に携わる私たち教師は、この一人ひとりの違いを尊重し、子ども達が自分の個性を生かし、更に豊かに育てていけるように、児童一人ひとりの思いや願いを理解し、自分の言葉を通して自己実現できるように温かく支援していかなければならない。

以上の考えに立ってこれまでの国語科の授業を振り返ってみると、読みの学習では、たとえ一斉授業ではあっても、一人ひとりの捉え方や感じ方の違いを大切にするために、学習過程の中に一人学びの時間を設けたり、パネル方式の授業を展開したり、児童の興味・関心に基づいた発展学習へと広げたりと、学習活動の多様化とともに個を生かす工夫はしたものの、現状においては教師の努力にもかかわらず、必ずしも個のよさや可能性を生かす支援・援助が的確に行われていたとは言えない。つまり子ども一人ひとりを十分に生かしてきていないのである。その原因を考えてみると一人の教師では、時間的、空間的にも

- ①子ども一人ひとりの多面的な実態把握
- ②子ども一人ひとりを生かした指導計画や学習材の工夫
- ③多面的な個人差、個性を生かした学習活動の展開

などの点について充分対応できない。

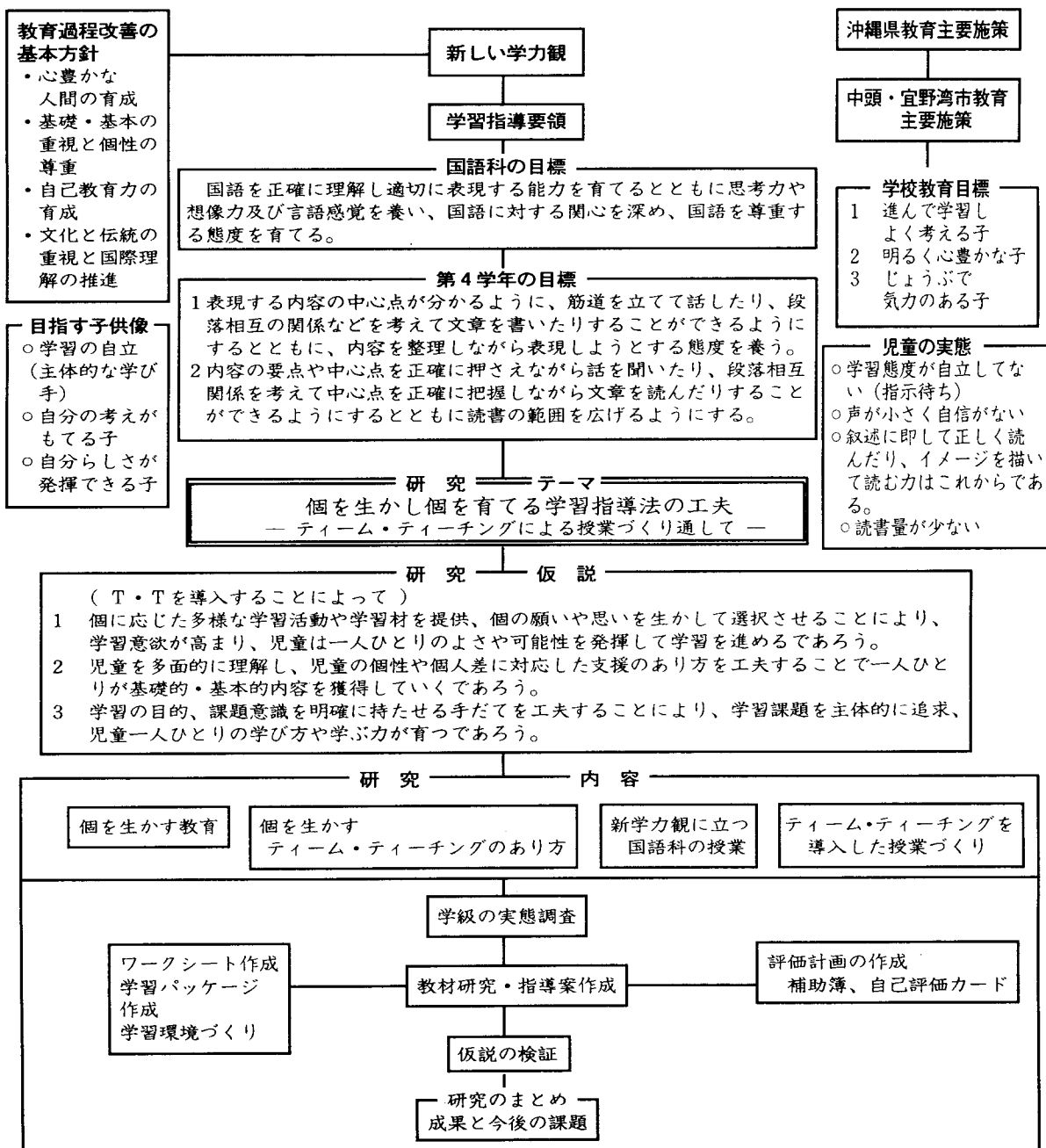
そこで児童一人ひとりの学習を成立させるためには、個のよさや可能性を生かし、育てる援助を意図的・組織的に行う必要がある。そのためティーム・ティーチングを導入することにより柔軟な対応ができると考えた。教師それぞれの個性に合わせた協力的な指導によって子どもの側に立つ授業、つまり、児童一人ひとりの興味・関心や、問題意識に基づいた多様な学習課題や表現活動を設定、児童一人ひとりが自らの課題に対して、自分の思いや考えをもち、自分のよさや可能性を生かしながら言葉を通して主体的に追求、多様な学習の仕方と生きて働く言葉の力が身につくような単元構成や学習過程、支援・評価の仕方を工夫することによって、個が生かされ、個が育つものと考え、上記テーマを設定した。

II 研究仮説

(T・Tを導入することで)

- 1、個に応じた多様な学習活動や学習材を提供、個の願いや思いを生かして選択することにより、興味・関心が高まり児童は一人ひとりのよさや可能性を発揮するであろう。
- 2、児童を多面的に理解し、児童の個性や個人差に対応した支援のあり方を工夫することで、一人ひとりの習熟度が高まり、基礎的・基本的内容を獲得していくであろう。
- 3、学習の目的、課題意識を明確に持たせる手だてを工夫することにより、学習課題を主体的に追求、児童一人ひとりの学び方や学ぶ力が育つであろう。

III 研究の全体構想図



Ⅳ 研究内容

1、個を生かす教育

(1) 個を生かす指導

学校教育において基礎基本を重視し、個に応じた教育の展開を推進することは重要である。個に応じた指導とは、児童一人ひとりの特性を充分理解し、これに応じた方法で基礎的・基本的内容を生きて働く力として身につけさせることである。と同時に児童一人ひとりが個性を發揮しつつ生きる力を育てる教育、つまり個性を生かす教育の充実でもある。

この個性を生かす教育は児童の基礎的・基本的内容の上に成り立ち、児童一人ひとりの内発的な意欲に支えられるものである。そのため児童一人ひとりが自分のものの見方や考え方をもち、発展させるような力を育てる学習活動や、体験的学習や問題解決的学習の中で学ぶ楽しさや喜びを感じ、児童一人ひとりが自己を生かしながら自己を高めるような学習活動が大切である。

この個性を生かすための授業改善の方法には、一斉指導における個別学習やグループ学習、ワークシートの工夫や教育機器の活用、問題解決学習等いろいろ考えられるが、ここでは時間的にも児童一人ひとりの対応を有効にする指導法の一つであるチーム・ティーチングのあり方を探る。

(2) 個の理解

児童が意欲的に学習活動を追求し、その実現に向かって学習の効果を上げようとする場合、個の理解は大切な条件である。児童一人ひとりの個性を認め、独立した絶対的な存在として、尊重しようとする肯定的共感的な立場で児童理解を深めるべきである。児童理解は一人ひとりの興味・関心、学習意欲、好み、表現の傾向、理解の仕方やまたそれらに影響を及ぼした家庭環境等にも配慮しながら、教師は児童のもつよさや可能性を發揮させながら望ましい方向に児童一人ひとりを支援することが大切である。

(3) 個人差と個性

個人差・個性は多様であり、多面的である。個性とは、児童一人ひとりの有している「よさ」であり、他の個から識別し得る能力や諸個性全体であり、不変の特徴ではなく形成されていくものである。また目には見えないが可能性として優れた個性の場合もある。これらの個性やかくれた可能性は生かし育てる指導が求められている。また、我々教師は子ども達は一人ひとり違うという前提に立ち、個人差を考慮した学習指導、学習形態を組織しなければならない。

減少させたい個人差には、達成度としての学力差や知識の差、学習スピードの差があり、個別の指導が必要である。個性として生かしたい個人差には、興味・関心や学習スタイル、学習スキル、また生活体験等がある。

2、個を生かすチーム・ティーチングのあり方

(1) 個人差に応じた指導とチーム・ティーチング

チーム・ティーチングは子どもの個人差や個性にどう対応したらよいのかという個に応じた指導、個を生かす指導であり、「個性の論理」「学ぶ側の論理」を優先する。一つの学級を一人の担任が指導するというこれまでの指導が児童一人ひとりを見捨てて行われてきたかというところではない。ただ児童一人ひとりのよさや可能性を伸ばし生かすには、複数の教師のチームワークによる協業の方が多様な子どもの個性に対応でき、対応のレパートリーも一人よりは二人、二人よりは三人、と広げることができる。チームを組むことで一人ひとりの個性や能力を的確に捉え、それに応じてより柔軟に対応できる。

チーム・ティーチングの果たす役割は個に応じた指導の徹底であり、個に応じた支援をすることが何よりも大切である。子ども一人ひとりに「分かった」、「できた」という満足感と成就感を味わわせ、自信をもって学習に取り組ませ学ぶ喜びを感じさせることにある。

(2) チーム・ティーチングのねらい

T・Tは目的ではなくあくまでも手段である。複数の教師がチームを組み、それぞれの持ち味を生かしながら、**より細かく、より幅広く、児童の多様性**に対応する。

T・Tのねらいをまとめてみると

T・Tの必要性

- | | |
|---|--|
| <p>① 一斉画一授業からの脱却</p> <ul style="list-style-type: none">・基礎的・基本的内容の徹底・「教える授業」から「子ども自らが学ぶ授業」へ・一人ひとりの子どもの学習を成立させ、個に応じた能力をのばす。 <p>② 自ら学ぶ子どもを育成（自己教育力）</p> <ul style="list-style-type: none">・学習への意欲・学習の仕方や学ぶ力・生き方を育成 <p>③ 子どもの個人差への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・指導の個別化・学習の個性化 | <p>④ 多様な学習活動・学習形態への対応</p> <ul style="list-style-type: none">・教材研究・学習材の作成・学習環境の設営 <p>⑤ 学年教師のチームプレー</p> <ul style="list-style-type: none">・お互いの持ち味を生かす。・足らざる所を補う。・協業と共働 <p>⑥ 様々な壁を取り払う</p> <ul style="list-style-type: none">・学級の壁・教師の壁・教科の壁 <p>⑦ 生活指導</p> <ul style="list-style-type: none">・多くの教師の目で子どもを見つめ指導。 |
|---|--|

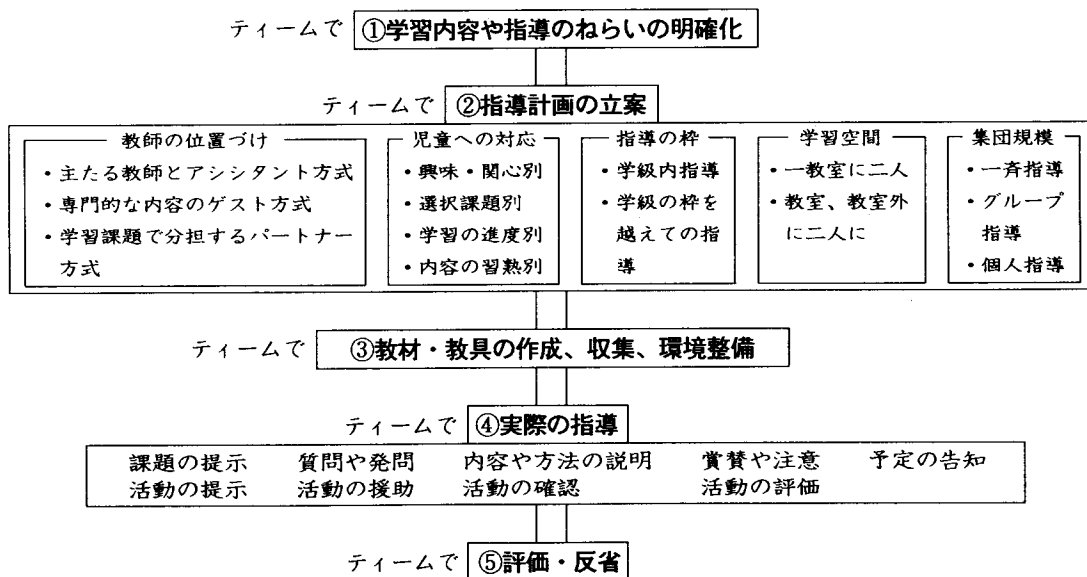
(3) ティーム・ティーチングによる学習活動の展開のモデル

	モデル	サブ・モデル	指導のパターン
個別指導	一斉指導 補足モデル	一斉指導 補足モデル	<ul style="list-style-type: none"> ・T1の指導で共通課題を追求する。T2はサポートの形をとり子どもの疑問や質問、つまづきの対応やチェック・リストによる評価を行う。
		完全習得 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・一斉指導を行った後に診断テストを実施し、その習熟の程度に応じていくつかのグループに分けて個別指導を行う。
	類型別 グループ モデル	到達度別 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入でテストを実施し、結果に応じてコース分け指導を行う。単元ごとにグループを編成する。
個別化	学習ペース モデル	自由進度 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた時間の中で自分の学習のペースや時間にに応じて進める
		無学年生 学習 (はげみ)	<ul style="list-style-type: none"> ・無学年的に自分の到達度や理解度に応じてステップを積み重ねて、ドリル学習を進める。
T	学習スタイル モデル	適性処遇 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・自由進度と関わりながら自分のスタイルに合った方法で学習を進める。
T の 指 導 の 形 態	学習順序 選択モデル	順序選択 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・いくつかの課題の中から子どもの興味や関心に応じてその順序を自由に選択して学習を進める
		ランダム 選択学習	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な課題は共通に追求し、それを終えたら自由に課題を選択して進める。
個別 指導 の 形 態	学習課題 選択モデル	発展選択 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・共通の課題を速く終了させ、発展的な課題に取り組む。設定された課題の場合もあるし、自分で追求したい課題の場合もある。
		課題選択 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・全ての課題に取り組むのではなく、自分が挑戦したい課題に取り組む。終わると別の課題に取り組む。
	学習課題 設定モデル	自由研究 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆとりの時間を利用して、教科の枠を越えて自分で課題を決めて追求する。 <p>テーマの設定</p>
		関連発展 学習	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の枠にとらわれないで題材を設定し体験的・操作的内容を含めた総合的学習を行う。 <p>テーマの設定</p>

一斉指導
 個別指導 (グループ学習、ひとり学習)
 評価活動 (プリテスト)
 学習課題 (モジュール)
 形成的テスト

一小学校におけるティーム・ティーチングの考え方・進め方 神奈川県大磯個性化教研編著 黎明書房より

(4) ティーム・ティーチングの授業構想の視点



3、ティーム・ティーチングを導入した授業設計

(1) 新しい学力観に立つ授業改善の視点

国語科においては、新学力観を受けて、自ら学ぶ意欲の育成や思考力、判断力、表現力、行動力等の資質や能力の育成を重視している。そのためには子供の側に立つ授業の転換を図る必要がある。子ども一人ひとりが自らの思いや願いを生かしながら話題や題材に主体的にかかわり、自ら意欲的に考えたり、豊かに想像したり表現したりできるような学習活動を組織し、ティーム・ティーチングによる協力的な指導や図書館利用の位置づけ等を工夫して、子どものよさや可能性を伸ばす指導が求められている。つまり個を生かす授業への転換である。新しい国語科の授業を進めるにあたって、具体的な改善の視点として次のことが挙げられている。

① 子どもの側に立つ教材研究の工夫

- 子供達が自分の思いや願いを生かし、主体的にかかわれるよう教材を工夫する。
- 子ども一人ひとりの家庭生活や地域社会での感動、体験生活を自分らしく生かす。
- 子どもの既習の学習内容や方法を意図的、計画的に活用する。

② 主体的な学習活動の展開の工夫

- 子供一人ひとりの内発的な学習意欲に支えられ、自分のよさや可能性を生かし、自分の言葉で考えたり、表現したりする主体的な学習活動を重視する。
- 体験的な活動や問題解決的な学習を工夫する
- 基礎的・基本的内容を自ら学ぶ意欲や思考力、判断力、表現力等の資質や能力の育成を図るための中核をなすものとして捉え直し、子供一人ひとりがその後の学習に生きて働く力、即ち自己実現に役立つものとして身に付けるように工夫する。

③ 子供達の既習の学習内容や方法を生かす場面と時間の確保の工夫

- 既習の学習内容や方法を意図的・計画的に他教科や次の学習活動へと生かして、生きて働く力とし身に付けさせる工夫をする。
- 一人ひとりのよさが生かされるように一単位時間の弾力的な運用を工夫する。

④ 子ども達のよさを生かすための複数の学習活動とT Tによる指導の工夫

⑤ 読書指導や学校図書館の利用指導を指導計画に位置づけ、情報活用能力を高める工夫

⑥ 子ども達のよさを伸ばす指導と評価を工夫

(2) ティーム・ティーチングを導入した個を生かす授業づくり

「どの子にも豊かな個性があり、その個性を発揮できる場さえあればどの子も生きる」と言われているが、児童一人ひとりの豊かな個性を生かし育てる場を授業の中に設定するには、T・Tを導入してどのように授業を創造していったらいいのだろうか。

- 子供一人ひとりが明確な課題意識をもって、自分のよさや可能性を生かしながら主体的に追求、様々な言語活動を通して基礎・基本、学ぶ意欲や学ぶ力を身につけていく授業の構想

① 子どもにとって必要感があり、生活に生きて働く言語活動をする機会と場の設定の工夫

② 価値ある教材の開発と研究

- ・子どもの考えた学習計画と教師の指導目標が合致する教材
- ・子供の興味や関心に基づき基礎・基本がしっかり身につく教材や単元の開発
- ・地域の特性や文化、人の生き方、地域素材などからの教材開発、地域人材の登用
- ・様々な言語活動が有機的、統合的に統合される教材の開発

③ 単元構成の工夫

- ・子供の知識や興味・関心と、子供に身につけさせたい能力との関連において単元の主題を設定し、構成を図る。
- ・どんな活動を通してどんな力をつけたいのか、活動と育てたい言語能力を明らかにして構成の工夫を図る。
- ・子どもの問題意識や願いと、作品に内在している問題がどう関わっていくかを見通して構成する。
- ・単元の入り口である教材との出会いを豊かな出会いへと工夫し、出口は読書生活へと導く構成の工夫をする。
- ・家庭生活、社会生活、他教科との関連をはかり、構成をする。
- ・問題解決学習の過程を基本にして構成する。

④ 個を生かす基本的な学習過程

学習の目的や課題がどの段階においても学習者にはっきり意識される学習過程。

過程	学習活動	個を生かすT・Tによる教師の支援活動
つか題む	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教材との出会い ○ 学習課題をとらえる <ul style="list-style-type: none"> ・問を生み出す読み ・個人、共通の課題を考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要感をもって教材と出会えるように支援 ・児童の興味関心を生かしながら学習課題作りを支援 ・学習の目的の明確化、意識化
見通しをつ	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習計画を立てる ・学習の順序化、学習方法、形態、時間配分、分担 ・学習方法のモデルを学ぶ 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習の手引きやガイドの提示 ・個に忘れた学習の方法や順序などへの助言（自分の考えを大切にさせる。） ・作品例などの提示
追求	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自力で課題を解決する読み ・意味の分からない語、文、文章を予想し、辞典等で確認 ・調査研究をして自分の考えをもつ（文献探索、収集、フィールドワーク ・自己、全体の課題追求 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習活動中の個に応じた情報提供 ・個に応じた学習方法や順序や修正（既習の学習内容や方法の活用） ・思考判断、想像のよさの賞賛、励まし ・個に応じた活動の場の助言 ・自分なりの考えの明確化

す 確 か め る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 相互交流して自己を高める ・ 追求したことを出し合い、読 みを深める。 ・ 他の考えを聞き自分の考えを 広げ、深め、修正する 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自己を高める交流の仕方への助言 ・ 主体的な追求の結果が十分に発揮でき る場の確保と支援 ・ お互いの考えや感じ方のよさを認め合 ったり進んで出し合う雰囲気づくり
	表 現 す る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 表現する。 ・ 討論会、発表会、報告集 作品鑑賞、類題等による作品化
め ま る と	<ul style="list-style-type: none"> ○ まとめ、自己評価をする。 ・ 学習の整理（感想文レポート等 ・ 学習の振り返り、反省 ○ 新たな課題を解決する読み 応用、発展する読み 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習によって得た所産、単元、教材へ の思いや願いについて記録、 ・ 自分の考え、学ぶ態度や学び方の反省 ・ 新たな課題の意識化 ・ 学習方法の定着化

⑤ 個のよさや可能性が発揮できる学習活動、学習形態の工夫

※ 結果よりも学習プロセスを大切にし、子供一人ひとりの思考力や判断力、想像力や表現力を伸ばす場を設定する。

- 児童の好みや個性にあった多様な学習方法や学習コースを設定する。
 - ・ 学習形態を工夫し、児童自身で選択、決定できるようにする。
 - ・ 個に応じた多様な目当て
 - ・ 多様な追求、解決の仕方
 - ・ 多様な思考
- 表現活動の場の設定の工夫。個のよさや可能性は表現活動に顕著に表れる。様々な表現活動を通して私の読みを作品化していく。

⑥ 相互交流の場の設定の工夫

子供一人ひとりは集団の場で自分を輝かせながら生きていく。相互に交流し合うことによって課題に対する自分の考えを修正、補充したりしながら追求し、成就感や満足感、有能感を味わうことができる。また練り合い、高め合う中で自分のよさや友達のよさに気づき、他に認められることによって学習意欲が高まり、個の考えがより確かで深いものになっていき、個が生きていく。

<相互交流の前提条件>

- 自分の考えをもっていること
- 自分の考えを表現できること
- 自分の考えを受け入れる集団があること

<相互交流を行う際の留意点>

- 自分なりの考えをもつことを大切にさせる。

- 交流することは正しい一つの答を出すためではないことを大切にさせる。
 - ・ 多くの考えがある。
 - ・ 似た考え、違った考えがあることを知る。
 - ・ 考えにまとめが出来ることに気づき、深まった考えを知る。
- 友達の良さに気づき友達相互のつながりを深める。

—久留米市教育研究所
紀要41集—

(3) 個を生かすチーム・ティーチングによる支援と評価のあり方

① 個を生かすチーム・ティーチングによる支援

子供は学習の目的がはっきり意識化され、必然的な学習の場に立たされたとき自分の既存の力やよさや可能性を総動員して学習に取り組む。個のよさや可能性が充分発揮できたとき意欲的に自らの課題を追求し、主体的に解決しようとする。教師は一人ひとりの子供に寄り添い、必要な提案や助言をしたり、愛情ある共感的な態度で適切な支援を行い、子供一人ひとりのよさや可能性が発揮されるようにすることが大切である。

② チームによる評価

評価には、教師による評価と子供一人ひとりの自己評価や相互評価がある。

新しい学力観に基づく評価では、教師の評価はこれまでのように指導の結果としての評価ではなく、子ども一人ひとりの学習の成果や、学習の過程における努力や意欲を評価し、教師の指導の改善と子どもの学習意欲の向上に生かすように努める評価である。

二人で行うチーム・ティーチングの評価は、二人の教師の一貫した指導と評価の一体化によって適切なものとなる。そのためにはまず評価の観点、評価の規準を明確に設定する必要がある。そして評価方法のあり方や分担の仕方、また個を生かすために子ども一人ひとりにどのように個別の対応をし、学習活動を支援していくか等を検討して行き、二人の教師の目による確かな評価をしていく。そのためには児童の対話や話し合い、行動、表情等の観察を大切にし、子どもの思いや願いを二人の教師で共感的に温かく理解し、個に応じた多面的な支援を行う。その際補助簿や座席表の活用等も有効である。このようにチーム・ティーチングによって、より指導と評価の一体化を目指し、子ども達が自分のよさや可能性を生かして自己実現できるように支援することが望まれる。

チームで協力して次の場で評価・支援していく。

- ・ 学習活動、学習過程の節々で評価支援
- ・ 子供の表現したもの、作りあげたもの、取り組みの様子等
- ・ 学習の成果についての事後の評価・支援
- ・ 次の学習への意欲・関心

評価にあたっては、つけたい力つまり基礎的・基本的内容と同時に学習意欲や努力、追求の仕方や活動の進め方、生き方等を児童一人ひとりに即して評価しなければならない。その際、他との比較ではなく個人内評価を中心に据え、子供の意欲や学習

の取り組みの育ち方、創意工夫やよさなど、その子の変容に目をつけていくことが大切である。

＜評価の視点＞

- ・学習意欲の育ちを見る。 …「内発的動機」「集中力」「持続力」
- ・学習の仕方の育ちをみる。 …「問題把握力」「問題を見通す力」「追求力」
(情報処理能力、思考力、判断力、想像性)、「表現力」
- ・生き方の育ちを見る。 …「向上心」「社会性」

③ 子ども一人ひとりによる自己評価

次に、子ども自身の手による自己評価や相互評価が、学習者主体を重視する考えから大切にされてきている。自己評価は自主的、個性的に行なわれる評価であり、子供達の意欲や個性を尊重し、更に、自分をより高めようとする気持ちを起こさせる。また、自己の学習成果や活動の仕方等を反省することで、子どもの情意を育てそれを自分の成長や発達に寄与していく評価でもある。それには児童一人ひとりの学習意欲や努力が反映されるような自己評価が望ましい。その際、評価の結果が次の学習に生かせるように、ここでも学習活動と評価の一体化を図ることが重要である。

(4) 主体的な学習を推進する学習環境の整備

個を引き出し個を生かすためには、子ども一人ひとりの個性的な追求活動を保障することである。個性的な追求ができるための前提として、子ども達一人ひとりが自ら学習課題を選択したり、設定したり、更に、自らのペースで情報を集め、自ら分析し、比較評価し、自分なりのまとめ方が出来なければならない。自ら学ぶ力を育てるためには学習環境作りが重要である。

① 学習パッケージ

学習の手引き (ガイド)	学習活動全体の進め方を示し、学習のねらい、学習時間、単元名、学習のまとめについて書かれたもの
学習シート	手引きに書かれている内容を、更に子供達が実際に活動できるように課題の把握、予想、解決等詳細にステップで示し、これで学習を進める
発展シート	課題を早く終了した児童が次の発展へと進むためのシート
ヒントシート	学習カードの補助の役目で関連資料をのせたり、作業のヒントに使う
振り返りシート	自分の学習の様子や学習内容の反省に生かし、次の学習へ生かす。

② 学習材

- ・学習活動に必要な教材・教具 (視聴覚機器、図書資料、操作物、実物資料)

③ 学習環境一般

- ・間接的に学習活動を支えるもので知的にも美化的にも倫理的にも刺激するような学習空間

④ 人的環境 (ボランティアの活用)

- ・専門家の特技を生かす
- ・体験を語る
- ・お母さん先生を活用する

国語科学習指導案

平成9年7月11日

普天間第二小学校 4年2組

男18名 女14名 計32名

授業者 仲村弘子

上原育子

研究テーマとの関連

1、子ども一人ひとりのよさや可能性を生かして

○子ども一人ひとりのよさや可能性が発揮できる学習の場を

子どもたちは、自分の興味のあることややりたいことに取り組んでいるとき、顔を輝かせ生き生きと活動する。この興味あることややりたいこと、これまでの既習経験などを生かすことが個のよさを生かすことになる。自分の思いや願いを生かしながら民話を調べようと追求の課題をつくったり、また、追求の方法をいろいろとみんなので考え、図書や聞き取り、ビデオなど自分らしい方法で追求したりする。このような複線的な学習活動を用意することで、子ども達一人ひとりのよさや可能性を生かす。

○子ども一人ひとりのよさや可能性が発揮できる表現活動を

子ども達一人ひとりのよさや可能性は表現活動の場で顕著に発揮され、育てられる子ども達一人ひとりが、自分の思いや願いを発揮して楽しく取り組める多様な表現活動を仕組む。ペープサートや語り、紙芝居など生き生きと活動させたい。

2、基礎的・基本的内容の定着を

○既習事項や既習経験を生かす。

単元との出会いの段階で民話の基本読みを「吉四六話」で行い、追求の段階で、好きな民話を読み進める学習に生かしていく。また表現の段階では、これまで経験したペープサートや紙芝居などの表現活動を取り入れ、楽しく取り組ませたい。

○ティームで支援

多様な学習課題、表現方法をティームで支援することで子ども達は自分のよさを発輝しながら学習を進める。情報カードの取り方や読めない子への読み聞かせ、表現方法の特質に応じた表現活動の指導、学習の手引きやアドバイスカードの作成など、子ども一人ひとりの実態に応じた支援を用意することで分かる学習がすすめられ、学ぶ意欲が高まる。

3、学び方や学ぶ力を

○「民話」の学習の仕方を分からせ、楽しく学習させるために、「学習の手引き」や「アドバイスカード」を準備する。活動の仕方やまとめ方、工夫などを例示し、必要に応じて利用させる。学習の仕方が分かると、学習意欲が高まり、一人ひとりのよさを発揮しながら、主体的に課題追求できるものと考えた。

○「民話のおもしろさを見つけ、語り伝えよう」を総合単元的に扱う。「語り手」となって民話のおもしろさを伝える発表会まで、「読む、聞く、話す、書く」の様々な活動を教室の中で、外で、必要に迫られて展開していくことで子ども達一人ひとりの学ぶ力を育てる。またグループ間の交流の場を設けることで学び合いを深めさせる。

1、単元名 「民話のおもしろさを見つけ、語り伝えよう」

2、単元設定の理由

(1) 単元について

この期の児童は言動に活発さが見られ、行動範囲も広がってくる。知識欲が増し、想像力、読書力も向上してくる。

このような時期の子ども達にとって民話というジャンルの教材に出会わせることは、

読書の領域を広げるとともに、独特の語りや方言による表現のおもしろさ、豊かさに気づかせ、民話に託された人々の思いや願いについて考えさせることになり、昔の人達の生きる知恵や生きる喜び、生きる意味を子ども達一人ひとりに教えてくれるであろう。

本単元は一学期最後のまとめの単元であり、読書教材である。これまでの学習を生かしながら、ここでは本単元の目標である「民話のもつおもしろさに気づき、民話に託された人々の願いや思いを想像すること」をねらっている。数多くの民話に出会わせ、楽しく読ませ、これからの夏休みの読書生活へとつないでいきたい。

そのためには教科書教材「吉四六話」の語りを導入で聞かせることで、子ども達を民話の世界に誘い込み、子ども達の思いを大切にしながらいろいろな民話のおもしろさを課題ごとに追求させていく中で民話のもつよさにふれさせたい。様々な民話のもつよさにふれることによって民話の持つ表現の豊かさやそこにこめられた人々の願いに気づいてくれるであろう。

民話のおもしろさは語りのおもしろさでもあると言われる。ここでは語りまではいなくてもおもしろかった民話一話を選び、音読を中心にしながらペープサートをつくりたり、劇化したりなどの活動を取り入れ、子ども達一人ひとりのよさを発揮して楽しく表現させたい。このような活動を通して、子ども達は子ども一人ひとりがもっている好奇心をバネにしながら、民話特有のおもしろさや豊かさを子ども自身で見つけだし、民話の世界に浸りながら、民話のおもしろさを自分らしく生き生きと表現するであろう。

(2) 児童について

○ 興味・関心の面から

・子ども達は朝の会での教師の読み聞かせを楽しみに待っている。どの子も真剣に耳を傾け、お話の世界に聞き浸っている。だが、いざ自分で読むとなると、興味はあるものの読む力が伴わなかったり、読書領域に偏りが見られたり、読書冊数に個人差が見られたりでなかなか読書の生活化までにはいたらない。

民話については「民話」という言葉は知らなくても、「桃太郎」や「力太郎」「スーホの白いうま」などといったお話はよく知っており、大好きである。テレビや漫画、ビデオ、などの映像を通して子ども達は昔話にこれまで親しんできている。

だが現代の家族事情を反映してか民話を語り聞かせるという機会は少なく、また方言についても聞いたり話したりして方言を使いこなせる児童は殆どいない。

＜ 民話や方言についてのアンケート結果 ＞

……略

○ 読書力の面から ……略

○ 理解力・表現力の面から

- ・あらすじをとらえられる子がだんだん増えてきている。
- ・人物の気持ちや様子、情景などを豊かに想像したり、また想像したことを音読で表現したりする力はまだ不十分である。
- ・自分の考えをはっきりもって発表し合い、学びあう姿勢はこれからである。

○ 児童の実態
及び生かしたい
よさや個への対応

	進んで読書	発表する	熱心に最後まで読書	協力して活動	感想を喜ぶ	聞く	音読	読み取る	
	読	発	読	協	感	聞	音	読	児童の実態及び生かしたいよさや個への対応
1	○	○	○	○	△	△	△	○	児童の熱心な読書ぶりを生かしたい。及ぶ個人への対応
2	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎	意欲があり、行動的。集団に有利になる。
3	◎	○	◎	◎	◎	○	○	◎	意欲があり、集団に有利になる。自主的行動で生かしたい。
4	△	△	○	◎	○	○	○	○	与えられた課題をまじめにやる。進歩力も伸びている。
5	○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	意欲は少ないが、集団に有利になる。特に読書で進歩している。
6	△	○	○	◎	○	○	○	○	与えられた課題をまじめにやる。読書で進歩している。

(3) 指導について

民話は長い間多くの人々の心の中で育まれ温められてきたものである。民話のおもしろさはその内容そのものにあるし、表現する語り手にあるし、それを受けとめる聞き手の側にもある。これら三者が関わり合い、響きあう中でさらにおもしろさはふくらんでいく。そこでこの単元では民話のもつ様々なおもしろさを、更に語り手になって民話を伝える立場に立つことで民話を語る楽しさ、おもしろさを味わわせたい。理解から表現へとつなぎながら楽しく民話の世界へと誘いたい。そのためには次のような工夫をしていく。

① 単元との出会いの段階

- オープンスペースを使って民話コーナーを設けたり、卒年生の民話の作品を掲示したり、学習環境づくりをしておく。
- 導入時に簡単に図書分類をしながら民話への興味を持たせ、教師による教科書教材「吉四六話」を語り聞かせることで、単元の出会いを工夫する。

② 課題をつかむ段階

- 語りの「吉四六話」を聞いた感想から調べる観点をとらえ、「吉四六話」で調べ方の基本を押さえさせる。既習の方法を生かして他の民話の文章を調べ読みし、調べたことを情報カードにまとめる作業を通して民話の特徴をとらえさせていく。
- T・Tを導入することで、興味・関心に合わせた課題をつくらせ、個の思いが生かされるようにする。
- 「民話のおもしろさをを見つけ、民話を語り伝えよう」という共通課題を作り民話を表現する「発表会」をもつことにより、目的意識をはっきり持たせ、主体的に学習がすすめられるようにする。

③ 追求の段階

- 学習の手引き、コース別のアドバイスカードを作成することで子ども一人ひとりの学習の順序、学習の仕方を支援していく。
- 祖父母からの聞き取りや図書、録音カセットなど多様な方法の中から追求の方法をグループで考えさせ、楽しく追求させる。
- 追求した情報を交流し合うことにより、互いのよさを認め合わせる。

④ 表現の段階

- 子ども達一人ひとりを聞き手の立場から、語り手の立場に立たせる発表会を持つことにより、主体的に学習させ、更に民話を表現するおもしろさや楽しさを味わわせたい。
- 多様な表現方法、表現内容にあった活動と場をチームで支援し、一人ひとりのよさが発揮できるようにする。

⑤ 伝える段階

- お世話になった方や父母を招待して「発表会」を開くことで、子ども一人ひとりが自分らしさを発揮して生き生きと表現活動、個が生かせるようにする。

3、単元の仮説

- ティーム・ティーチングを導入することにより、児童一人ひとりの興味・関心に応じた学習コース、表現活動を設定、個に応じた支援をティームで行うことにより、児童一人ひとりのよさや可能性を生かすことができるであろう。
- 友達や家の人に「民話のおもしろさを伝えよう」という目的意識を明確に持つことにより、児童は学習の見通しを立てて、主体的に学習を進めるであろう。
- 様々な民話にふれられるような単元構成を仕組むことにより読書の世界がより豊かになるであろう。

4、指導目標

- (1) 国語科4学年の目標 ……略
「観点別学習状況」評価の規準 ……略

	国語への関心 ・意欲態度	表現の能力	理解の能力	言語についての 知識・理解・技能
単元の 総括目標	・民話に関心をもち、楽しく読もうとする。	・自分の課題を持って読み進め民話のおもしろさを工夫して伝えることができる。	・多くの民話を読み、民話に託された人々の願いや思いについて考えることができる。	・共通語と方言や民話の語り口の違いについて理解することができる。
	・民話独特の語	・情報カードに	・民話のおも	・方言の使い方や

具体目標	り口や方言のおもしろさに親しみ進んで伝えようとする。 ・民話に興味をもち、自分の課題を追求しようとする。	必要な事柄を整理して書くことができる。 ・民話のおもしろさを工夫して伝えることができる。	しろさを見つけることができる。 ・民話にたくされた人々の思いや願いを読み取ることができる。	民話の語り口を生かして、適切な音量や速さで語るることができる。
------	---	---	--	---------------------------------

(2) 基礎的・基本的内容

A	ウ	考えをはっきりさせたりまとめたりしてから書くこと
表現	ケ	聞いたり読んだりした中から素材を集め、その表現を生かすこと
B	ウ	場面の様子、人物の気持ちの変化が伝わるように音読すること
理解	カ	気持ちの変化・場面の移り変わりを想像しながら読むこと
キ		聞いたり読んだりした内容に対して一人一人の感じ方に違いのある
C	ア (イ)	目的に応じた音量・速さで話すこと
言語	エ (ア)	語句の意味、語句の量を増すこと
事項	カ (ウ)	共通語と方言の違いについて知ること

5、教材 「吉四六話」

6、教材とその指導

この「吉四六話」は全体が三話で構成され、古くから九州地方に伝わる民話である。貧しい村人の吉四六さんが、持ち前のとんちで時の権力者である父親、武士、殿様を痛快にやりこめる話である。

ここではそのうちの子ども達の好きな一話を取り上げ、単元との楽しい出会いに生かす。吉四六さんの意表をつくとんちやひょうひょうとした人柄、また語りや方言による表現面のおもしろさなどを読み進めながら、吉四六さんの活躍にこめられた貧しい人たちの願いについても考えさせていく。民話の学習の基本読みとしてこの「吉四六話」を位置づけ、これからの調べ読みに生かしていきたい。

7、単元の評価規準と判定基準 ……略

8、指導計画 (11時間+3時間)

第一次・第二次

第1時～第2時 ○吉四六話の語りを聞いたり読んだりして、感想を話し合いこれからの学習計画を立てる。

第三次

第3時～第4時 ○いろいろな民話を調べてそのおもしろさを情報カードにまとめる。
第5時 ○民話のおもしろさや民話の底に流れている人々の思いや願いを交流する。

第四次

第6時～第7時 ○好きな民話のおもしろさを伝える方法を話し合う。
○好きな民話の台本づくりをする。
第8時～第9時 ○発表会にむけて表現を工夫して練習をする。
第10時 ○ミニリハーサルを開いて練習する。

第五次

第11時 ○民話のおもしろさを伝える発表会を開く。
(二学期授業参観日に予定)

*表現活動に必要な小道具やバック作りは図工(2)、ゆとり(1)の時間に行う

9. 単元計画

次	時	学習目標	学習活動	形態	教師の支援と個への手だて	評価
一次	①	<ul style="list-style-type: none"> 吉四六話の語り感想を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> 図書の分類遊びから民話や昔話の本の違いをつかむ 本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>語りを聞いて民話のおもしろさを伝える学習計画を立てよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 吉四六話の語りを聞く。 おもしろさを中心に感想を発表をする。 教材文を読んで更に吉四六話のおもしろさを見つけ民話の特徴をつかむ。 	一斉 (ワークスペース)	教師の支援と個への手だて <ul style="list-style-type: none"> 民話や昔話に親しむように日頃から読み聞かせをしたり、ワークスペースに民話コーナーを設置しておく。 T1 (主) ◇本10冊の仲間分けを通してこれからの学習へ持たせる。 T2 (補助) ◇図書の仲間分けを行う児童の学習につかませると同時に民話昔話への興味を持たせる。 語りを聞かせることでこれからの学習への関心・意欲を高めさせる。 ◇児童の様子の観察 > <ul style="list-style-type: none"> 第一話の語り聞かせ < 児童の様子の観察 > 第二話の語り聞かせ < 発表の様子を観察し児童の意欲を高めさせる > ◇物語や童話との違いに目をつけさせる。 ◇おもしろい所にサイドラインを引かせる。 ◇短くメモさせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>《おもしろさの観点》 表現 (方言、語り口) ・ 内容、筋 ・ 人々の願い</p> </div>	興味をもって語りを聞いたり、学習計画を立てることができたか。 (関心・意欲) 観察
二次		<ul style="list-style-type: none"> これからの学習計画を立てる。 	一斉 (教室)	<ul style="list-style-type: none"> 見つけたおもしろさを発表し合いワークシートにまとめさせる。 ◇ワークシートの形式は次の情報カードに生かせるようにする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>共通課題 語り手になって民話のおもしろさを伝えよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 民話のおもしろさを見つけ、語り・学習計画表づくり 	吉四六話のおもしろさを見つけワークシートにまとめることができたか。 (理解) ワークシート	

単元計画……以下省略 同様に作成する

10、本時の展開 (3/11)

(1) 本時の目標

- ・いろいろな民話のおもしろさを見つけ、情報カードにまとめることができるか。

(2) 本時の評価

- ・民話のおもしろさを見つけ、情報カードにまとめることができたか。

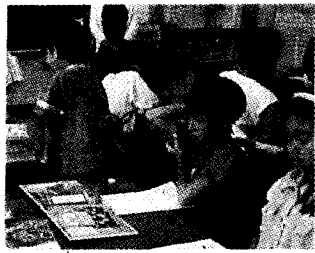
- 評価規準
- ◎ 必要な情報をカードにまとめることができる。
 - 部分的なおもしろさを押さえてまとめられる。
 - △ 話の筋を押さえられる。

(3) 本時の仮説

- ① 追求の観点をはっきり持たせて、自分の興味ある課題を追求させることにより、子ども達は意欲的に取り組むであろう。
- ② アドバイスカードを準備したり、チームを組んで支援することで子ども達は自分のよさを生かしながら学習を進めるであろう。

(4) 本時の展開

学習の流れ	学習活動	教師の支援・ 個への対応(◇)		評価
はじめ	1、本時のめあてをつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ・いろいろな民話のおもしろさを見つけて情報カードにまとめよう。 </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の取り組みたい課題、追求方法については前もって考させておき課題別にグルーピングしておく。 <p>T1 主に全体を進める。 ・発表でグループの課題を確認させる。</p> <p>T2 児童観察をする。 ・学習の準備や構えが弱い児童の支援</p> <p><課題例> ア 宜野湾市に伝わる民話のおもしろさを調べよう イ 沖縄県の民話のおもしろさを調べよう。 ウ キジムナーのでてくる民話のおもしろさを調べよう。 エ 外国の民話のおもしろさを調べよう。 オ とんち話のおもしろさを調べよう。 カ 日本の昔話のおもしろさを調べよう。</p>	教室	めあてをつかむことができたか。
一斉 T1 T2	2、情報カードの内容まとめ方を話し合う 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんなことを書けばよいのか、どのようにまとめたらいののか考えさせる。 <p>情報カードの観点 どの民話か、登場人物、粗筋、おもしろかったことや心に残ったこと、表現のおもしろさ、昔の人々の願い</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メモは短く必要な事柄を書くことを押さえる ・書けない場合は空けてよいことを知らせる。 <p>◇情報カードは何種類か用意し、個に選択させる。 ・本時は図書を中心に自分の課題を追求させるが休日を利用して聞き取りをしてきたグループはそれを生かす。(カセット、)</p> <p><アイウグループの支援><エオグループの支援> ◇地域の民話では卒年生が調べた資料も利用させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OHPの操作 ・OHPを利用してまとめ方を押さえる。 <p>◇A児B児C児の個別指導 ◇読み聞かせをしたり、一緒に活動を進めていく。</p>	教室	
□□ □□ □□ □□ T1 T2	3、課題別に分かれ追求しやすい場所へ移動する。 4、課題ごとに民話を読み、おもしろかったことを追求し情報カードにメモしていく。		教室 ワークスペース	民話のおもしろさ



5、自己評価を書く

終わり

- ◇資料が少ないグループは回し読みをしたり、読み聞かせをし合って進めさせる。
- ◇課題にそった図書、適切な図書の選択がなされているか、助言する。
- ◇メモのとれない児童には、心に残った場面や方言語り口に付箋紙を挟ませ、抜き書きさせる。
- ◇アドバイスカードを見たり、友達のまとめ方も参考にするように助言する。
- ・振り返りカードに記録させる。
- ・次時に、調べたことを情報交流し合うことを告げる

- ・学習への取り組みの姿勢、まとめ方の良さを賞賛する。

教室

を見つけ情報カードにまとめることができたか。
(表現)

情報カード

11、評価計画 ……略 12、学習環境づくり ……略

13、検証授業を終えて

- 個のよさが生かせる単元を選び、理想とする単元構成の工夫を試みた。子ども達は短期間に集中して自分の課題に意欲的に取り組んだ。「民話はおもしろい→もっとおもしろさを見つける→表現する→伝える」の流れが、一人ひとりの児童にスムーズに意識され、自主的に協力しながら活動する姿が見られた。
- 一人学びに必要な多種の学習パッケージを用意し、個への教師の支援が行き届かない面を補うようにしたが、不慣れなため十分に使いこなせなかった。リハーサルの頃には必要に応じて利用する姿が見られ、学び方を育てるのに有効である。
- 教育機器の利用（デジカメ、コピー機）は児童の表現にかかる時間と方法を解決させ、言葉の力に重きを置く指導を図ることができた。
- 指導案上でのT1・T2の役割分担の明確化、T1がいつでも主。本単元の構成上から個に応じる、個を生かすために、T1・T2を組んだのはよかった。
- 子ども達が活動する中で、子どもが見えてきたので座席表で次時の支援に生かすような評価に努めた。その積み上げによって学び方の育ち具合が見られると思うが実際の授業での活用には無理があるが、生かせるように努力したい。
- 沖縄県や地域の民話を扱ったのは子ども達に地域のよさ、地域を理解する上からも意義があったのでは。

14、評価の実際

①座席表による評価と次時の支援

1 単元名民話のおもしろさを見つけて民話を語り伝えよう			
おもしろさ伝わるように練習する。⑧⑨時		おもしろさ伝わるように表現と文に評している。⑩⑪時	
おじいさんおばあさんがでくる日本昔話	1 2 3 4	外国の民話	1 2 3 4
司会と生徒、大活躍の活躍のそと、表現をたいてい、ハリアートを練習して	1 2 3 4	おじいさんおばあさん表現をたいてい、ハリアートを練習して	1 2 3 4

②評価補助簿（観点別学習状況評価）

	関心・態度		表現		理解		言語		調べた課題
	単元名・興味	関心・態度	表現力	工夫して表現	おもしろさ	見解	言語	表現	
1	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	沖縄
2	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	外国
3	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	日本昔話
4	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	日本昔話
5	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	宜野湾
6	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	沖縄
7	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	日本昔話

IV 研究の成果と今後の課題

国語科におけるチーム・ティーチングを導入した授業創りを通して、「個を生かし、個を育てる学習指導の工夫」について、理論研究、授業実践を試みてきた。民話の心や民話のもつ表現の豊かさに触れさせながら、児童一人ひとりが本来持っている自分のよさや可能性を最大限に生かし、自己実現に向かう児童の育成を目指した。児童が複数の教師による授業を喜んで受け入れ、自分の課題・目的意識を持ち追求していく中で、これまでとは違う生き生きとした輝きを見せてくれたことは収穫であった。このような指導を重ねていくことにより、個が生き、個が豊かに育っていくものと実感した。

以下、全体の研究を振り返っての成果と課題をまとめると

1 研究の成果

- チーム・ティーチングの基本的な考え方や類型、T・Tを導入した国語科の単元構成の工夫の仕方や指導過程についてある程度つかむことができた。
- 子ども一人ひとりの追求活動に応じたT・Tによる支援や評価の仕方を多少なりとも授業の中で実践、教材や追求活動のねらいに応じてゲスト方式、パートナー方式、アシスタント方式のT・T形態を組み入れたので、一人の教師よりより児童への対応を可能にした。
- 多様な学習コースを児童自身で決定したり、児童の思いや願いを生かした学習活動を設定することで、児童の意欲や活動に活気が見られ主体的に学習を進める姿が見られた。
- 学習の目的の意識化や、多様な学習材や学習パッケージの効果的な利用が課題解決の力を育てるのに有効であると認識した。

2 研究の課題

- 文学教材におけるT・Tの効果的かつ具体的な支援のあり方と評価活動のあり方
- 国語科の授業における個を生かすとは、個のよさや可能性を生かすとはとは具体的にどういうことか。明らかにしたい。
- T・Tの連携の取り方や歩調を合わせることの難しさ

終わりに

この半年間教育現場を離れて、新学力観に立った個を生かす学習指導のあり方をT・T方式の授業を導入して研究を深めることができたことは私にとって意義あることでした。これからも、一つでも多くの授業研究を積み重ね子ども達一人ひとりに、確かな言葉の力をつける、子ども一人ひとりが生きる、そして豊かに育つ授業創りに努力していきたいと思えます。

最後に研修の機会を与えて下さった宜野湾市立教育研究所と仲村元惟校長先生、資料提供や参考文献の紹介等、丁寧に御指導御助言下さった新城トシエ先生、検証授業でお世話になった同学年の先生方や多くの先生方に感謝申し上げます。

<主な参考文献・資料>

児島邦宏・三浦健治編	個を生かす教育とチームティーチングの実際	教出	1994年
熱海則夫	チームティーチング	ぎょうせい	1989年
鳴門教育大附属小	個が生きる授業の創造	明治図書	1996年
文部省	新しい学力観に立つ国語科の授業の工夫	東洋館	1996年
久留米市教育研究所	研究紀要 41集		
神奈川県大磯個性化研	小学校におけるチームティーチングの考え方・進め方	黎明書房	1994年